

三國連太郎
村瀬幸子
河原崎長一郎
佐藤オリエ
杉本哲太
武田久美子
佐藤浩市
米倉斉加年
高橋長英
結城美栄子
田島令子
若山富三郎

この愛は誰のためですか

旅路の果てに人は何を見るのか
現代日本の荒野を鋭く切り拓いて
あなたと、あなたの家族に迫る、魂の問題作。



人間の約束

吉田喜重・監督作品——86年カンヌ映画祭正式出品

製作●谷島茂之・青藤安代・高橋松男/企画●高橋松男/プロデューサー●藤本 潔・山口一信・中道長吉/原作●佐江兼一〔「老熟家族」新潮社刊〕/脚本●吉田喜重・宮内輝貴子/撮影●山崎善弘/音楽●細野晴臣
カラー作品/西友(西武セゾングループ)・テレビ朝日・キネマ東京●提携作品/東宝東和●提供





カンヌ映画祭から全世界へ 魂に迫るこの感動と衝撃。

息しまるくらしいに緻密な画面構成、冷静な視点。この作品は、日本社会の驚くべき証言の一つとなった。
* (テレマ誌)

洗練された映像感覚。老夫婦に扮する三國連太郎と村瀬幸子の演技も出色。秀作である。
* (エスパス・ジャポン誌)

これは、安楽死の是非を問う社会派映画というより、リアリティを持つ根源的な家族映画である。
* (カイエ・デュ・シネマ誌)

ことばでは表現できない老人の心を、坦々とした映像で描き、それが作品に普遍的な広がりを与えている。
* (シネマトグラフ誌)

人生を見る目が細部まで行き届いた深みのある作品だ。
* (読売新聞ヘカヌヌ'86河原畑 寧氏)

演技と映像の切れ味のよさに驚いた。扱われているのは老いと死。その根底をなす重要な問題は愛以外になかった。だがそのすべてを通じて、何という深淵の上で生が営まれていくのか。(大岡 信氏 詩人)

人生の黄昏―(老熟の第四世代)の "明日"を見つめた今秋最高の話題作

ある朝の老女の死。それは安楽死か、尊属殺人か――。平均寿命の延長とひきかえに人類が初めて迎える、人生の黄昏―(老熟の第四世代)。映画は、そうした世代を生きる老夫婦と、その家族たちのこころ模様を描きつつ、夫婦の愛、親子の絆を現代の視点から問いかけます。いま人は何をすべきか、そして、人間の約束とは――これは、21世紀への警告を含んだ、感動と衝撃の問題作なのです。
* 鬼才・吉田喜重監督をはじめ、日本映画界が総力を結集。本年度カンヌ映画祭の公式部門に、日本で唯一参加して各国の熱い喝采を浴びた、この秋最高の話題作です。



目をそむけがちな部分だけでなく、見終わつた後の印象は強烈。家族で話し合つべきテーマを持つ映画だ。
* (川崎行雄さん 公務員・52歳)

とてもよかつた。こわかつた。
* (斉藤真弓さん 主婦・41歳)

外から眺めるというより、自分自身が話の中に飛び込んでいました。将来の現実として、とても身近に感じました。
* (岡野真理さん 看護教員・26歳)



吉田喜重・監督作品
86年カンヌ映画祭正式出品
人間の約束
カラー作品 / 東宝東和提供



〒140 東京都品川区南大井6-27-25(西友大森店5F)

キネカ大森

TEL 03-(762)-6000

11/15(土) ~ 12/5(金)